

第二十四回句会 俳句

【高点句】

- ☆更待のひとりは寝ねてしまひけり 〈きさ〉
☆瞳を開けて見よこの月を姉澄子 〈千恵〉
☆秋涼や始発電車の銀弱く 〈莫院〉

【各自一句】

- ・ 琴柱(ことじ)立て励む稽古や月今宵 〈青蛙〉
・ 爽やかや寺へと続く鈴(りん)の音 〈眞澄〉
・ 新調の眼鏡できたり月の宴 〈きさ〉
・ 卷尺のもどるはやさよ彼岸花 〈文香〉
・ うす衣を纏ひては脱ぎ今日の月 〈明美〉
・ さはやかや何とかなるさケンケンペア 〈千恵〉
・ 月仰ぐちりんと自転車は過ぎ 〈莫院〉
・ 雲去りて月街灯を手で隠す 〈撫子〉
・ 家中の灯りを消して月今宵 〈童心〉
・ 敬老の日のケーキ先づわが皿に 〈静〉
・ 子規庵の縁にころがる涸れ糸瓜 〈一馬〉
・ 雨上がる遮断機越しの月黄色 〈安津子〉
・ 見下ろせば瀬戸の島々翳雲 〈茂〉

*以上、39句(3句ずつ13名)より、選句は13名により4句ずつ

*高点句は、高得点の句より3句(同点の句がある場合は、第三位の句迄)

*各自一句は、得点に関わらず、作者自身の選出による(得点順ではなく、俳句一覧表に偶然記載された順に掲載)